

旧参道を登る

①大鳥居

堂々とした大鳥居が出迎える旧参道御神坂は、昔、六供（ろっく）と呼ばれる羽黒大権現の社僧と、七宮人と呼ばれる楽人が差配しそれぞれの小宮・明神を護持していた。六供の小宮はいまも現存しており子孫達も信夫山に住んでいる。江戸時代の石積みや独特の屋敷跡が、当時の雰囲気を残している。



今も残る六供の小宮

②正八幡



③天神宮



④牛頭天王宮



⑤三宝荒神



⑥山王宮



⑦一ノ宮明神



コース案内

駒山広場 → 護國神社 → 信夫山墓地
 → 舟繁ぎ松跡 → 御神坂 → 鳥居平 → 大鳥居
 → 羽黒観音 → ねこ稲荷 → 石燈籠 → 加藤大学の碑
 → 仁王坂 → 名月の碑 → 羽黒神社 → 大わらじ
 → 北坂 → 第二展望台 → 甘粕の碑 → ゆず畑
 → 護國神社 → 駒山広場



⑧日本一の 大わらじ

羽黒神社に奉納される大わらじは、長さ12m重さ2tもある。300年の歴史を誇る(暁まいり)に由来するもので、健脚・縁結びにご利益があるとされ、市民に愛されている。



⑨羽黒神社

信夫山のシンボルとして羽黒山の頂上にある。以前は木造の大社殿で、三方に見事な彫刻があったが、昭和51年に惜しくも焼失してしまった。



⑩羽黒観音

信達三十三観音の三番札所であり、現堂は大正9年の火災のあと南沢又の光徳寺の薬師堂を移したものである。福島市の重要文化財である如意輪観音を念持仏としている。現在は薬王寺に保管されている。



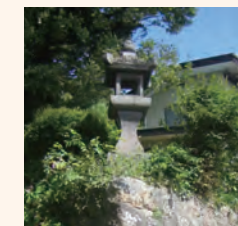
⑪ねこ稲荷

信夫の三狐の一匹、御坊狐を祀った「西坂稲荷」が本来の名称だが御坊狐が尻尾とともに神通力を失くし、養蚕の大敵ねずみを退治する事となったことから、ねこ稲荷と呼ばれるようになった。現在は、飼い猫の幸せを祈願する稲荷として写真ボードが置かれ、沢山の愛猫家が訪れている。



⑫島屋の石燈籠

江戸時代の飛脚問屋、島屋が健脚と旅の安全を願って寄進したもので、それがわらじ信仰が盛んになる要因のひとつとなったという。石がきも当時のまま残されている。



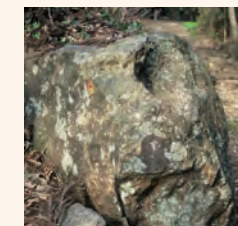
⑬六供 加藤大学の碑

信夫山の六供・七宮人の存在を伝える石碑で、表には羽黒山六供社人 元山伏 加藤藤左エ門大学邸と刻印があり、裏には第七十七代 加藤伝これを建つとある。



⑭膝かぶ石

御神坂の上、仁王坂にあり弁慶が膝をぶついたら岩の方がぼこんと凹んだと伝えられている。足の悪い人がその穴に膝を当てるとたちまち快癒すると云われている。



⑮安江繁家公德碑

上杉家の家臣で、伊達・信夫郡の郡代であった安江繁家は良政を行い領民から厚く慕われた。石碑には大日如来を表す円相が刻まれ、そこに額を当てると頭痛が治り頭も良くなるという。

